

令和6年度草の根・人間の安全保障無償資金協力

① 「ラオカイ省フィンガン村ロスオイトウン橋建設計画」

1. 案件概要

ラオカイ省バットサット郡フィンガン村フィンホー川の渓谷に橋梁（全長 18m、幅 4m、コンクリート造）を建設することにより、地域住民に安全な交通手段を確保し、もって同地域住民の教育・医療環境の向上及び地域経済の活性化に寄与する。

2. 対象地域と現状

(1) ラオカイ省バットサット郡フィンガン村

(2) バットサット郡は山岳に囲まれた峻険な地形とフィンホー川に阻まれ村内の交通が十分に整備されていない。事業対象地には、2007年に敷設された全長 15m、幅 1m の鉄製の橋梁が架けられ、同橋梁がフィンホー川南岸とフィンガン村中心部を繋ぐ重要な生活橋梁となっている。しかし、同橋梁は、鉄製のフレームに細い板を架しただけの簡素なものであり、幅員は狭く、路面が滑りやすいため、徒歩またはバイク、自転車等の軽車両でしか利用できない。小型の一般車両であっても車幅は 1.6m、貨物車両は 2m 以上あり、安全に通行するためには幅員は最低でも 3m は必要となるため、こうした車両は現用の橋梁を通過できない。とりわけ雨期（6月～8月）は路面が濡れて滑りやすくなり、川に滑落する危険もあるため、安全な渡河が困難となる。フィンガン村の住民が生活道路として利用している鉄製の橋梁を、現在の安全性の低いものから堅牢なコンクリート製に建て替えることで、同村住民が、天候に左右されずに年間を通じて安全に学校や村内村外の医療機関等の公共施設へアクセスすることが可能になるとともに、村外への農産品の効率的な輸送が可能となる。



台風3号（ヤギ）で被災した現ロスオイトウン橋
130,101 米ドル（18,084,039）

3. 供与金額

4. 実施団体

バットサット郡人民委員会

令和6年度草の根・人間の安全保障無償資金協力

② 「ラオカイ省バクハ郡多目的避難施設建設計画」

1. 案件概要

ラオカイ省バクハ郡に災害時に避難所として機能する重大災害への耐災性を備えたコミュニティハウスを、ナムルク村ナムルクハ地区（200㎡、RC造）及びタイザンフォ村ガイタウ地区（200㎡、RC造）の2地点にそれぞれ建設することにより、災害時の避難所の確保を図り、同郡の災害対応能力の向上に寄与する。

2. 対象地域と現状

（1）ラオカイ省バクハ郡ナムルク村・タイザンフォ村

（2）バクハ郡は2024年9月に発生した台風3号（ヤギ）による洪水及び土砂災害で死者行方不明者34人、全壊した住宅116棟を数える甚大な被害を受けた。越防災法は避難所の整備を定めており、包括的国家防災プログラムは「コミュニティハウス等の公共施設を、災害発生時の避難所として利用できるよう新設、修理、改修し、多目的化を図る。」ことを謳っている。コミュニティハウスは日常においては防災を含む知識の啓発のみならず地区における集会、コミュニティ学習、スポーツ、文化活動に使用されることで、地域の防災意識を高めるとともに連携を強化し、防災能力を強化することが期待される。これらの政策に基づき地方において公共避難施設の整備が進められている。しかしながら、バクハ郡は峻険な山間に点在する集落を多く抱えており、災害時に避難施設に被災者を収容できないおそれがある。本案件の対象地区は同郡においてもとくに陰阻な地にあつて避難所の確保が難しく、近隣に避難所として利用可能な耐災性を有するコミュニティハウス又はこれに代わる施設が存在せず、集落に安全な避難施設を整備することが喫緊の課題となっている。



台風被災時の様子、避難施設が無い場合仮設テントで生活している

3. 供与金額 133,023 米ドル（18,490,197 円）

4. 実施団体 バクハ郡人民委員会

令和6年度草の根・人間の安全保障無償資金協力
③ 「ラオカイ省バオイエン郡多目的避難施設建設計画」

1. 案件概要

ラオカイ省バオイエン郡に災害時に避難所として機能する重大災害への耐災性を備えたコミュニティハウス（多目的避難施設）を、ビンイエン村トンキム地区（179 m²、RC造）及びバオハ村コアイ2地区（161 m²、RC造）の2地点にそれぞれ建設することにより、災害時の避難所の確保を図り、同郡の災害対応能力の向上に寄与する。

2. 対象地域と現状

（1）ラオカイ省バオイエン郡ビンイエン村及びバオハ村

（2）バクハ郡は2024年9月に発生した台風3号（ヤギ）による洪水及び土砂災害で死者行方不明者82人、損壊した住宅1,422棟を数える甚大な被害を受けた。越防災法は避難所の整備を定めており、包括的国家防災プログラムは「コミュニティハウス等の公共施設を、災害発生時の避難所として利用できるよう新設、修理、改修し、多目的化を図る。」ことを謳っている。コミュニティハウスは日常においては防災を含む知識の啓発のみならず地区における集会、コミュニティ学習、スポーツ、文化活動に使用されることで、地域の防災意識を高めるとともに連携を強化し、防災能力を強化することが期待される。これらの政策に基づき地方において公共避難施設の整備が進められている。しかしながら、バオイエン郡は峻険な山間に点在する集落を多く抱えており、災害時に避難施設に被災者を収容できないおそれがある。本案件の対象地区は同郡においてもとくに陰阻な地にあつて避難所の確保が難しく、近隣に避難所として利用可能な耐災性を有するコミュニティハウス又はこれに代わる施設が存在せず、集落に安全な避難施設を整備することが喫緊の課題となっている。



現在のコアイ地区のコミュニティハウス、裏手に斜面があり台風被災時には土砂が流れ込んだ

3. 供与金額 129,386 米ドル (17,984,654 円)

4. 実施団体 バオイエン郡人民委員会